

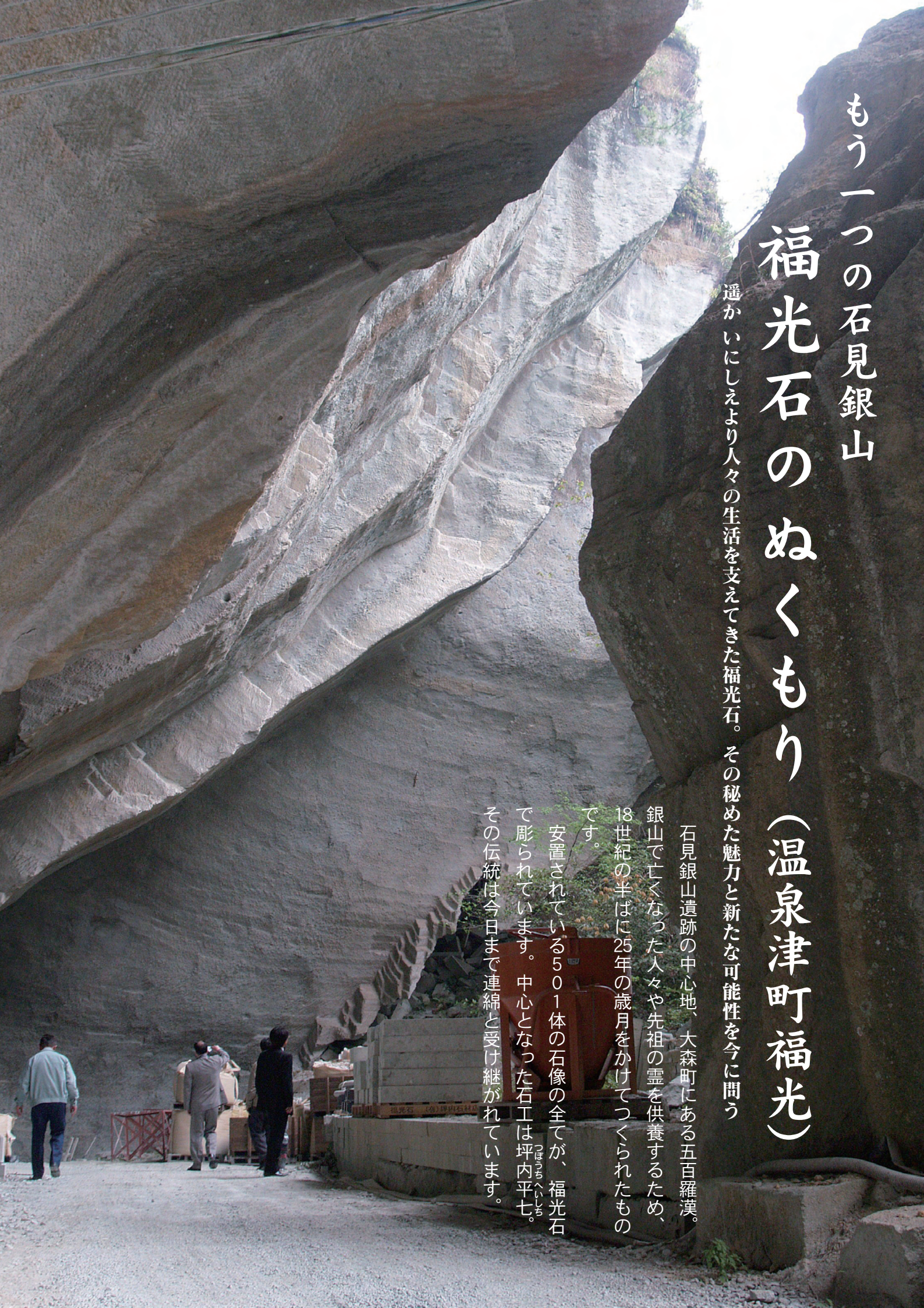
もう一つの石見銀山

福光石のぬくもり（温泉津町福光）

遙かにしえより人々の生活を支えてきた福光石。その秘めた魅力と新たな可能性を今に問う

石見銀山遺跡の中心地、大森町にある五百羅漢。銀山で亡くなった人々や先祖の霊を供養するため、18世紀の半ばに25年の歳月をかけてつくられたものです。

安置されている501体の石像の全てが、福光石で彫られています。中心となった石工は坪内平七つぼうちへいしち。その伝統は今日まで連綿と受け継がれています。



福光石のはじまり



福光石の採石が本格的に始められたのは、室町時代の福光城主、吉川経安が、地場産業振興のため、大阪から石工「坪内弥惣兵衛」を招いて始めたときからです。

これを機に、福光石は、石仏・鳥居・灯籠・水鉢・墓石から、石臼・流し台などの日常生活品、建物の地伏石、石畳、道標などに使われるようになり、石見地方を中心に、広範囲で使用されてきました。

昭和48年に機械掘りが始まると、商圏が拡大し、関東、北陸、関西にまで出荷をするようになり、福光石の採石量は、この頃最盛期を迎えました。

しかし、バブル景気の崩壊後、石材市場は安価な外国産の石材がとってかわり、福光石の受注量は減少しました。

福光石の特徴



福光石は淡い青緑色で、落ち着きのある独特の風合いに、やさしさや暖かみを覚えます。

また、凝灰岩（軟石）の一種で、加工しやすく、さまざまな特性をバランスよく兼ね備えた建材としても注目を集めています（下表参照）。

石切り場



450年間採掘が続けられる石切り場を訪ねると、入り口では山頂から手掘りで採石を始め、下へ下へと掘り進んだ階段状の採掘跡と、鮮やかに残るノミの跡に、迎えられるます（写真右）。

中に入ると、機械掘りの部分が広がり、整然と切り出さ



れた跡は、巨大な石造建物の内部に居るような錯覚を覚えるほどです。プールほどもあるかという大きな縦坑は、30メートルの深さまで掘り下げられ、そのダイナミックなスケールに圧倒されます。

内部は、1年を通じて温度がほぼ一定であることから、かつては食品の貯蔵庫として利用されてきました。また、数年前には、優れた音響効果を利用して、地元有志により「オカリナ」の演奏会が開かれるなど、石切り場そのものが、地域と深い係わりを持ち、生活文化を支えてき

ました。

コンクリート製品や、外国産の石材が多用されている現代だからこそ、自然素材にこだわる人も増えています。

これから家を建てようとお考えの皆さん、建設業に携わっている皆さん！ふるさと大田市が誇る地下資源「福光石」を、石材として使ってみませんか。あなたの感性に見合う何かが見つかるはずです。

石切り場は事前に連絡をすれば見学することもできます

主な特徴

主な特徴	
吸水効果	水にぬれてもすべりにくく、柔らかい感触は、浴室の床や、プールサイドなどに適しています。滑って転倒するなどの危険性が低くなります。
吸音効果	足音などが反響しにくいいため、静寂の求められる美術館や図書館などの床に使用されています。
遠赤外線効果	温泉津温泉では、古くから温泉の浴槽に福光石を使用してきました。温泉の温度でも遠赤外線効果が得られ、体の芯から温まります。
調湿効果・消臭効果	調湿効果、消臭効果も高く、内壁材としても優れた自然素材であるといえます。

問い合わせ：(有)坪内石材店(温泉津町福光) TEL 0855-65-2194 / <http://www.izumo-net.ne.jp/~fukumitsuishi/>